

ボルト自動供給装置

日産特許で製品化

高津のミス

川崎市高津区の自動組み立て機や検査装置の開発・製造会社「ミス」(酒井高雄社長)が、日産自動車(横浜市西区)の開放特許を活用し、工場に必要な数だけのボルトを作業者に自動的に供給する「部品定数供給装置」を製品化した。大企業の知的財産と、中小企業の技術力を合わせた新製品。わずか社員3人というミスの酒井社長は「会社設立当初から自社製品がほしかった。夢だったので、商品化できてうれしい」と話している。

市と市産業振興財団は2007年から大企業の開放特許を活用して中小企業の新製品開発などのマッチング支援を行う「市知的財産



製品化した装置を手にするミスの酒井社長
—川崎市役所

交流会」を開催。今回を含め17件のマッチングが成立し、9件が製品化。今回の「部品定数供給装置」については昨年7月の交流会を

きっかけて、同12月に両社がライセンス契約などを結び、製品化が進んだ。日産は車両の生産ラインでボルトやナットを必要に応じて必要な数だけ自動的に供給するため、磁石を埋め込んだ回転盤にボルトを吸着させ、自動で数を数えて作業者に出す技術を開

発。自社製の装置を約50台、横浜市内の工場などで使っているという。作業者の評判もよく、装置を利用することで作業の効率化とボルトの締め忘れ防止など品質向上につながるとい

う。ミスがこの技術を活用し、市販化に向けて部品数を抑えたりして装置全体の簡素化を図り、省スペース化、低価格化を実現した。4月から販売を開始する予定で、自動車メーカーや建築機械、農業機械などの大型工業製品メーカーを中心に売り込むという。価格は28万円〜年間2000台の販売を目標にしている。

日産テクノロジープジネス部の岩田耕一郎部長は「グローバル展開するには量産してあげるパートナーがほしかった。商品となれば信頼性や性能も上がり、ライセンス料などビジネスのメリットも大きい」と技術を

提供した同社のメリットを説明している。

(鈴木 昌紹)